

やまぐち学園だより

やまぐち学園教育目標:発見し、はぐくみ、かたちにする学びの広場
めざす人間像:よき未来を共に創り出す人間

第5号 2020年10月27日(火)

山口大学教育学部附属幼稚園

〒753-0070 山口市白石三丁目1番2号 TEL 083-933-5960

山口大学教育学部附属山口小学校

〒753-0070 山口市白石三丁目1番1号 TEL 083-933-5950

山口大学教育学部附属山口中学校

〒753-0070 山口市白石一丁目9番1号 TEL 083-922-2824



「～言葉とともに～ 今を生きる、時代に生きる」

附属山口中学校 教頭 河村 寛美

廊下ですれ違いざまに、笑顔の女子生徒が私に話しかけてきます。

生徒 「教頭先生、こんにちは～。キュンです^{※1}。」

私 「はい、こんにちは。」

生徒 「教頭先生、指、(自分の親指と人差し指を交差させながら) やってください。」

私 「はい? こう? 『チュン』です?」(キュンが聞き取れていない私)

生徒 「もっ、かわいい。教頭先生しか勝たん^{※2}。」

※1 キュンです「相手の仕草に胸がきゅんとしたときに発する語句」

※2 ～しか勝たん「～が最高、～に勝てるものはない」



国語の教員ということもあってか、若い頃の私は、自分が使う言葉は常に意識していました。品の有る無しもですが、言葉一つひとつがもつ「色」に常に注意を払って、無自覚には使わないようにしていたということです。そのため、生徒が使う言葉にも敏感で、言葉遣いは勿論、流行(はやり)言葉【マジ、うざっ、めっちゃ、だるっ】などにもいちいち反応して、文法的解釈まで加える『マジでうざい』教員でした。ところが、年を重ねたためか、ここ数年は、随分と感じ方・考え方が変わってきました。

それは、以前はあまり快く思っていなかった流行言葉を使うことに対して「時代や世代が感じられて、これはこれでいいかもしれない。」と抵抗感が減ってきたということです。それどころか、若い人が使う場合は、なおさら「今」という感じが伝わってきて、「若々しいなあ。」とか、「可愛いなあ。」と素直に感動したり、「青春(アオハル:巧みな表現です。)だなあ。」と逆にうらやましくなるほどになりました。私が抵抗感を感じなくなった理由の一つが、自分自身の若さの完全な喪失とそれに伴う若さへの憧れにあるとはしても、子どもたちが「今を生きる」・「時代に生きる」ことは確かです。そして、その「時代」を、「世代」を、感じる手段の一つが「言葉」であるならば、また、それが大人になってその時代を懐かしく思い出す縁(よすが)となるならば、それも悪くないなと思いました。

とはいえ本校では、子どもたちが、流行言葉は流行言葉として、それとは別に自分自身の言葉で自分の思いを表現しようとする場面が多く見られます。特に生徒会執行部では、自分たちの思いを言葉にのせるために、スローガン【彩～いろどる～】だけでなく、それを支える柱となる活動を象徴的なキーワード【「薫染」・「配意」など】で表現するべく何度も話し合いをしていました。私は何度かその話し合いの様子を見たのですが、それはそれは言葉にこだわった白熱した熟議でした。彼らからは、「自分たちの思いをできるだけ正しく表現し、伝えたい。」「自分たちの思いを理解し、みんなに共有してほしい。」という熱意が感じられました。

また、本校には、自分の考えや意見を物怖じせずと言える子どもたちが大変たくさんいます。これは一つには附属山口小学校をはじめとする各小学校で行われている「フリートーク」で培われた土壌の上に、本校の授業の中で、子どもたちが「考えてみたい」、「発言してみたい」と思う課題の提示がなされているからだと考えます。そして、そのような場面では、本校の子どもたちは、やはり、流行言葉は使いません。これは彼らがTPOをわきまえていることだけによるものではないようです。それは、自分の心の中の細かな感情や微妙な感覚、意見などを、より正確に表現し、さらに論理的に説明して相手の心を動かすには、流行言葉は適さないということが分かっているからだと思います。流行言葉は、感情や状態を表す言葉が多い上に、たくさんの概念をまとめて曖昧に、なんとなく表現しているため、多くの場面で使えるという汎用性は高いかもしれませんが、逆に、正確な意味がとりづらいように感じます。だからこそ、子どもたちは、流行言葉抜きで、もてる言葉を尽くし、さらに辞書で調べてでも自分の思いに近い言葉で伝えようと一生懸命になるのです。まさに本校の国語科研究室の掲げる「言葉と向き合い、仲間と共に、言葉の働きに改めて気づく生徒の育成」という研究主題に沿っているなど領きつつ、しかし、国語教室に限らず、すべての学園生活の中で、子どもたち自身が、思いを的確に表現し、共有できるような教育実践を学校全体で行っていかねばと感じているところです。

そしてまた、機会あるごとに、「今を生きる」子どもたちと、「今の言葉」を通して「楽しみたい」と思います。可愛い子どもたちとのそういった交流も「今を生きる、時代に生きる」ことだと思ふからです。

【附属幼稚園】

9月2日から6週にわたって、教育実習生がいる園生活となりました。実習生は子どもたちの自発的な遊びを観察したり一緒に遊んだりしながら、保育者として必要な援助や環境構成の工夫について実践的に学び続けた日々でした。園児は実習生が準備した教材や遊び環境にかかわり、新たな遊びや活動を楽しんだり、園外に散歩に出かけたり、実習生のする劇を見たりと思い出もたくさんできました。

また、例年の運動会の代わりに各クラスや学年ごとに行った運動遊び参観では、普段の遊びで楽しんでいる、かけっこや障害走、リレー、ボール遊び、ダンスなどを見ていただきました。



【附属小学校】

9月23日より10月16日までの3週間、約90名の教育実習生が、次代の教師となるべく附属山口小学校で教育実習に臨みました。感染症予防のため、例年とは異なり、3グループに分かれ、1週間約30名ずつの実習となりました。1週間という短い期間の中ですが、教育実習生一人ひとりが、前向きに授業に臨み、子どもたちと積極的に関わる姿が見られました。



児童と一緒にクラブ活動



教育実習生の授業



放課後研修

【附属山口中学校】

後期が始まりました。3年生最後となる秋季県体に出場した部活動もありました。また、その翌週は1、2年生が出場する山口市の新人大会でした。優勝や準優勝を決めた部もあり、来春の大会に向けて、気持ちが一層高まってきているようです。

附属中学校では9月下旬から10月中旬まで、後期教育実習が行われました。三密を避けるために実習生を3つのグループに分け、それぞれ6日間の実習を行いました。通常より短い期間の実習でしたが、子どもたちにとっても貴重な出会いになりました。

後期始業式。三密を回避するため、オンライン会議システムを使用しての始業式です。



後期教育実習。附属中学校ならではの行事です。



9月30日、附属山口小であいさつ運動をする中学生。多くの生徒が参加しました。



秋季県体。3年生にとっては最後の大会でした。